

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 自治会活動への若者参加について

参加者

桐生市区長連絡協議会(1～10区の区長)9名(※1名欠席)

桐生市長

報道機関 2名

日時: 令和7年8月6日(水) 午後2時00分～午後3時00分

場所: 美喜仁桐生文化会館 4階 国際会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 議 題

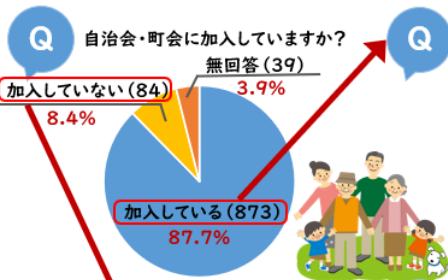
自治会活動への若者参加について

意見交換のポイント

- 若い世代が参加しやすい自治会活動について
- 担い手確保のため、柔軟な自治会運営体制について 等

5 閉 会

自治会・町会に関するアンケート結果（第24回「市民の声」アンケート結果[令和3年実施]）



Q どの程度、活動に参加していますか？

回答	回答数	構成比
活動に積極的に参加している	102	11.7%
興味がある活動、必要性がある活動は参加している	196	22.5%
活動に誘われれば参加している	152	17.4%
活動に参加したくないが、仕方なく参加している	127	14.5%
活動に参加していない	202	23.1%
無回答	94	10.8%
計	873	100.0%

Q 自治会・町会に加入していない理由はどのようなことですか？

回答	回答数	構成比
自治会・町会費の負担が大きいから	3	3.6%
忙しくて活動に参加できないから	12	14.3%
何をしているのか分からないから	18	21.4%
勧誘されていないから	19	22.6%
引越しが多いから	1	1.2%
近所づきあいが面倒だから	11	13.1%
無回答	20	23.8%
計	84	100.0%

- 自治会がどのような活動を行っているのか理解していただき、活動に興味を持っていただく必要がある。
- 加入していない方は、地元の自治会に関する情報を得ていない可能性がある。
- 自治会が防災・防犯・福祉など地域で安心して暮らせるために、行政では目の届かない地域の細やかな視点の活動を行っていることを知っていただく必要がある。

自治会活動に若者の参加を促す取組事例

①北海道・札幌市

●現役世代に参画してもらうために

きっかけづくり

カフェミーティングを開催
(現役世代が町内会や地域コミュニティにどのようなことを求めているか、現役世代の声に耳を傾ける)

情報の発信方法を工夫

定期的なポスティング、SNSなど多様な方法で町内会情報を発信

メリットを感じてもらう

現役世代のニーズに対応した活動を意識的に行う



②山形県・鶴岡市

●将来を見据えた持続可能な組織づくり

役員体制・事業等の見直し

役員・班体制の縮小や役員手当の見直しや将来を見据えた町内会費へ変更

各世代が参加しやすい活動

若者から高齢者まで幅広く参加できる防災研修会などを開催

郷土愛を育む環境づくり

・子どもの頃から地域活動に関わることができるように開催日や運営形態等を工夫
・伝統行事・芸能への理解促進や継承活動支援



③広島県・広島市

●若者参加で元気の町内会に

誰でも気軽に参加できる行事

・若者に声を掛け、祭りの準備を手伝ってもらう
・地域行事に関わることで若い世代の参加が増えにぎわっている

子どもも親も参加したくなる活動

地域からの声掛けにより子どもの参加を通じて親同士が仲良くなり、困ったときお互いを助け合える関係が構築できていることが地域活動を続けられるコツ



(市長)
本日は開催テーマを「自治会活動への若者参加について」とし、皆さんと意見交換を行い、「共創」「共創」によるまちづくりを創造してまいりたい。

意見交換のポイント

- 若い世代が参加しやすい自治会活動について
- 担い手確保のため、柔軟な自治会運営体制について等

とさせていただきます。

まずは「自治会活動への参加状況や若者の参加を促す取組事例」などについて説明させていただきます。



市長より「自治会活動への参加状況や若者の参加を促す取組事例」の説明

※資料参照

地域活動におけるデジタル活用

自治会の担い手不足など変化する地域課題に対応し、将来にわたり地域活動を持続可能なものとするため、自治会活動にデジタルを活用し、事務負担や情報共有等の効率化を図るとともに、活動に関する情報発信の強化を進める必要がある。
(総務省「自治会等における地域活動のデジタル化ハンドブック」等より)



情報伝達を取り巻く課題

自治体の抱える課題（例）

- 紙の回覧板では環境への配慮が難しくコストもかかる。どこまで回覧されたか把握が難しく、紛失リスクあり
- 一般的なSNSの利用では、なりすましや誤情報の氾濫リスクがある

マイナンバーカード認証公共アプリ「tami tami」による解決

- 自治体と住民が同じサービス上で繋がれる電子回覧板の導入により、管理コストを低減し情報伝達の網羅性を向上
- 本人認証を前提としているため、住民による誤情報や不適切な情報の発信リスクが最小限

電子回覧板導入のメリット

- 情報伝達の迅速化
- 配布・収集等のコスト削減
- 業務効率化
- 情報の一元管理
- 環境負荷の軽減
- 情報が手元に残る（紙媒体は一過性）
- 高齢者の見守り（閲覧確認機能）
- 感染症対策になる
- 災害時の情報伝達や、平常時の情報共有の効率化に役立つ など

（市長）
今回の意見交換のポイントにもあるとおり、地域の方々で特に若い世代が参加しやすい自治会活動にするためには、どのようにしたら良いか、また、各区で自治会運営に当たって現在取り組んでいることについて、ご意見いただきたい。
その他、普段感じていることについても忌憚のないご意見をいただきたい。

地域活動におけるデジタル活用

電子回覧板の実証実験について（東久方町三丁目自治会）



◆ R6.10月：区長連絡協議会定例会にて案内

マイナンバーカード認証公共アプリ「tami tami」

アプリ回覧板一覧画面イメージ

→ 東久方町三丁目自治会より実証実験への協力していただける旨の申し出

回覧板機能でできること

1. 地域の回覧板を確認
2. 自治体からのお知らせを確認
3. 掲示板のような情報発信

自治会、バカン、市により実証実験開始に関する打合せ等を実施

◆ 現在5・6人がマイナンバーカードの登録作業完了 → 今後、登録人数を増やしていく

利用機能の修正中

利用のハードルを下げるため、マイナンバーカードの登録をしなくても利用できる機能も設定
イベントカレンダーなど新機能の追加



◆ R7.9・10月頃：少人数により実際にアプリを利用予定

「笑顔のサロン」で若者参加のきっかけづくりを



（意見）

現在「笑顔のサロン」を月曜日と金曜日の10時から17時まで実施しており、平均すると、一日約30名の方が利用している。サロンでは、麻雀・輪投げ・百人一首・上毛かるた・囲碁・将棋等ができ、利用者は参加する中で交流を図り、気楽に話しながら、親睦を深められる環境になっている。また、利用者は高齢の方が多いが、皆勤賞の方もおり、朝採れた野菜などを持ち寄り、集会所で料理してみんなで食べて交流を図ったりもしている。

自治会活動への若者参加ということについては、民生委員の人選で苦慮しており、色々な方法でなり手を探すものの若者が見つからず、どうしても高齢の方をお願いすることになってしまったり、町会長や自治会長の奥さんが担っているという状況である。

やはり今後も自治会活動を継続していくためには、若い世代の参加が必要だと感じているので、まずはサロンに参加してもらって活動を知っていただき、楽しいと思っただけできるよう取り組んでいきたい。

（市長）

自分も「笑顔のサロン」に参加させていただいたことがあるが、賑わいがあり本当に素晴らしい取組である。このように集まることで自治会や町会の活動について話す良いきっかけづくりができると思うので、継続して取り組んでいただきたい。

（意見）

若者の参加については、お祭りには参加していたが、その他の活動では現役世代は仕事もあり、町会の活動には参加が難しい状況である。そのような事情については、我々役員も理解はしているので、無理矢理お願いすることはできず、我々がある程度頑張らなくてはならないと思っている。

また、本町3丁目の市営住宅については、入退居をしっかりと把握できておらず、新しく入居した方ともコミュニケーションが取れていないことに困っており、そのような方は自治会活動への参加もできていない。

その他、隣組長や民生委員の人選も難しい状況であるため、町会長会議において、住民がどのようにすれば話し合いに参加していただけるかなどを議論している状況である。

（市長）

やはり地域課題を抱えている現場の生の声は大変参考になり重要である。アパート・団地・マンションなど多くの方が居住しているところでは、入退居をしっかりと把握するためにも、入居者との交流が大きな課題になってくると感じた。

集合住宅の入退去者の把握について





(市長)
若い方が自治会活動へ参加した良い事例であり、大変貴重な意見をいただきありがたい。

(意見)
お祭りの関係では、育成会を中心に参加していただいております。子ども向けにゲームを開催したり、大人同士で交流を深める場を設けるなり、実施に当たっては、若い世代のお父さんお母さんに積極的に関わっていただき、大変好評に終わることができた。その際に、町会の会議にも出席していただき、お互い親交を深め合うことができたため、今後もこのような方法を継続して実施していきたい。

祭りや商店街関係の活動では若者参加も



祭りへの参加をきっかけに親交が深まる



(意見)
祇園祭でのお神輿などについては、若い世代が中心となって協力していただいているが、例えば民生委員や国勢調査の調査員などについては人選が難しい状況である。また、消防団についても人が集まらず、火災が発生しても出動がままならないということもある。

本町5丁目に高層マンションがあり、80世帯以上が入居しているが、個人情報問題でどのような方が入居しているか全く分からない。例えば今回の国勢調査の調査員についても、マンションの理事長に依頼したが見つからず、結局周辺に住んでいる組長経験者にお願ひし、マンションの管理人の方にも協力していただくことになった。

若い世代の担い手を探すには厳しい面があるが、お祭りや商店街関係の活動では若者も参加して何とか継続できているような状況である。

(市長)
お祭りの関係では若者の参加もあり、活気がある感じがうかがえる。何とかそのような方たちが今後も継続的に関わっていただけるようにしていきたい。

民生委員や国勢調査の調査員の人選についてもそれぞれ大変苦勞があるということと、どのような方法がいいか検討していかなければならない。

町会と育成会が連携した自治会活動について



(意見)

5区では、「見守り隊」として腕章を作製する計画があり、散歩している方で子どもから高齢者まで誰が着用してもよく、この地域は皆腕章を付けているというだけである程度犯罪を防げるのではないかと考えている。

また、若い世代や子どもとの交流を図る機会として、グランドゴルフを取り入れることを検討したが、子どもの参加によりルールが崩れてしまうため難色を示されてしまった。やはり若い世代や子どもに参加していただくためには、若者を中心に考え、楽しく参加できるようなことを企画しないとならない。そのための参考として、例えば子どもが参加したくなるような行事などのアイデアについて、小中学校の先生に意見を伺うのもいいと思う。

その他、球都桐生ということで市内の全学童野球チームを二つに分け、オールスターゲームのようなことを試みたりすると、孫の野球をおじいちゃんおばあちゃんが見に来たり、地域をまたいだコミュニケーションを図ることができると思う。

(市長)

各区の取組を考えることも必要だが、地域をまたいだ活動についても今後は検討しなければならない。また、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できる活動として、皆が参加して楽しいと思えることを考えていかなければならないということが分かった。

若い世代を中心としたイベントの企画を



(意見)

コロナ禍前まではお祭りを開催していたが、コロナの影響が出てからは休止しており、再開するためにも育成会に声をかけたが、お祭りを開催するための資金集めが昔のようににはできず苦慮している。若者が参加する機会をということで、一生懸命やっていたが、若者自体が減りつつあるため難しく、どうしても高齢の方ばかりとなってしまった。

4区では、老人会や婦人会が、公民館を利用して、歌声サロンやボツチャなど、色々なアトラクションを積極的にやっており、そのような取組に育成会を含めた若い世代が参加できないか色々と検討している。そのような中、今年、早朝に小梅琴平公園で自治会と育成会が一緒になってラジオ体操を始めた自治会もある。

(市長)

育成会の方々と町会が連携して自治会活動することは重要であり、色々と調整が大変であると思うが、若い世代の自治会活動への参画を促すためにも継続していただきたい。

時代に合わせて工夫し 活動継続を

(意見)

役員の担い手不足については、自分の時は声を掛けられて選ばれ、役員になったが、やはり若い人材を入れるには、そのように誘って入れることが多いと思う。

お祭りでは、7区には8町会あり、以前は当番町を一年交代で回して子ども神輿も行うなど、大変盛り上がりつつあったが、時代と共に若者も少なくなり、開催できなくなってきた。そのような中でも、まだ子どもが多い町会については、町会独自でお祭りを行っているところもあり、若い方から高齢者まで人気があり、喜ばれているため、今後はそのようなお祭りに他町会の区民も参加するようなことを区として考え、継続開催できるようにしていきたい。

また、住民で外国人の方が増えてきているため、トラブルが発生しないよう支援していきたい。

スポーツの面では、ボッチャを活用して交流会を開催し、地域間交流を図っている。

投票所の適正数については、7区には選挙の投票所が3か所あるが、人口も減っているため、投票者も少ない投票所への人員配置は経費の面でも検討の余地があると思う。

高齢者の見守りについては、民生委員のみでは回り切れないため、役員も手伝ったり、見守り会議を開催して報告会を行うなどして何とか乗り切っている。また、独居高齢者で施設に入所する方が増えており、社会福祉協議会にもお世話になっているが、電気・水道・ガスなどライフラインの状況を確認する必要も出てきている。



(市長)

様々な課題を抱えながら自治会活動を行っていただいていることがよく分かった。

投票所の件については、今回の参議院選挙において、期日前投票が非常に増え、当日に投票所へ行く方が少なくなってきたということもある。なので、いただいたご意見も参考にさせていただきたい。

また、様々な世代が参加できるボッチャについては、大変素晴らしいと思うため、引き続き取り組んでいきたい。

他の自治会活動への若者の参画について



(意見)

町会の役員については高齢化が進んでおり、若者視線で若者が参加したくなるような企画やアイデアをいただくため、40〜50代の方を集めて話し合い、アドバイスをいただいた。そこでは、親子3世代が参加できるようなものを開催できたらいいのではないかとということで検討した結果、誰もが楽しめるスポーツであるボッチャによる交流会をこれまで2回開催し、3回目の開催も予定している。

また、北公民館を中心としたサークル活動への参加についても周知しているが、若い世代の参加は少ない状況である。

そのような中、10区には他の区にはない群馬大学があるという特性を生かし、群大生をどのように自治会活動へ参加していただくかを考えて様々な取組を行っており、町会のお祭りに参加していただきたい、他のイベントでも群大生に協力を得ながら取り組んでいる。

(市長)

若者に自治会活動へ参加していただくためにはどのようにしたらいいかわかり考えながら取り組んでいたという点があり、大変ありがたい。

群大生の協力を得ながら自治会活動推進を



(意見)

若者の自治会活動への参加については、区民運動会を実施する際に各町会の若者が中心となって企画・運営していただいております、そのような若者を他の活動でも参画していただけないかと思っております。また、西小から運動会へ参加することについて相談もいただいております。

各町会のお祭りについては、子どもの参加が多い町会があったり、群大の先生方にも参加していただいたりと、非常に活気があり、地域の輪も広がっている状況である。また、美和神社を中心にお祭りなど色々な活動をする動きも出てきている。その美和神社の維持補修には多大な費用が必要であり、寄附を募ることで階段に手すりを設置するなど、多少補修できるようになってきた。

その他、集会所に毎週15人ぐらいが集まり、麻雀などで交流を図っているが、女性の参加はあるものの、若者の参加は少なく、若者の参加を更に増やすには、運動会やお祭りをきっかけとしてどのようにしたらいいか検討しなければならない。

(市長)

若者の自治会活動への参加については、現在参加いただいている運動会やお祭りをきっかけにして増やしていくのはいい考えだと思う。



（市長）
 本日皆さんから頂いたご意見
 の中で、自治会活動への参加を
 促すためには、「サロン」、「お祭
 り」、「スポーツ」がキーワード
 になってくると感じた。
 いただいたご意見を参考に若い
 世代を始め、多くの住民の皆
 様に自治会活動に興味を持っ
 て参加していただくための方
 法や取組について検討させてい
 ただきたい。

